

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：ネパール

日付：2019年8月21日

報告書名：平成30年度 日本NGO連携無償資金協力事業 中間報告書

平成30年度 日本NGO連携無償資金協力 中間報告書

2019年8月21日

事業名	ヌワコット郡、ラスワ郡の被災小学校における防災能力強化事業 Strengthening Resilience of Earthquake Affected Schools in Nuwakot and Rasuwa district, Nepal.																																									
事業対象地	ネパール ヌワコット郡、ラスワ郡																																									
事業期間	事業期間：2019年2月28日～2020年2月27日																																									
公的資金種別	平成30年度 日本NGO連携無償資金協力																																									
契約金・支出状況	契約額：599,216米ドル																																									
プロジェクト目標および、達成度	<p>本事業は「対象の小学校の防災レジリエンス（能力）が高まる」ことをプロジェクト目標とし実施されている。事業はほぼ計画通りに進んでいる。達成度は以下の通り。</p> <p>（ア）【3年次の指標】対象校（9校）が再建された学校校舎を利用している。</p> <p><1年次および2年次象校></p> <p>6校とも校舎完成後にヌワコット郡の教育省および復興庁の校舎建設監督機関である District Level Project Implementation Unit (DLPIU)の現地検証を受け、設計図通りに完成したことを認証する書簡を受領した。</p> <p>1年次対象校については工事完了6カ月後の2018年6月に瑕疵責任の検査を実施し、建設会社、学校、当会の間で合意された小規模の修復工事を建設会社が実施した。</p> <p>建設した耐震構造校舎の教室数と児童数は以下の通り。児童数は新学期開始後の2019年5月下旬のデータである。</p> <table border="1" data-bbox="363 1368 1434 2000"> <thead> <tr> <th rowspan="2">学校名</th> <th rowspan="2">建設した校舎、施設</th> <th colspan="3">登録児童数</th> </tr> <tr> <th>事業開始前</th> <th>事業実施後 2019年5月</th> <th>増減率 (備考)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="5">1年次対象校</td> </tr> <tr> <td>ラムチャンドラ校</td> <td>2階建て6教室</td> <td>162名</td> <td>224名</td> <td>38%増</td> </tr> <tr> <td>シタダルマ校</td> <td>2教室2棟(うち1棟2教室は自己資金分)</td> <td>116名</td> <td>142名</td> <td>22%増</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="3">5年生クラスまでだったが2019年度に6年生クラスまで拡張した。</td> </tr> <tr> <td>シャンティデビ校</td> <td>3教室1棟、2教室2棟(うち2教室1棟は自己資金分)</td> <td>51名</td> <td>62名</td> <td>22%増</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>329名</td> <td>428名</td> <td>30%増</td> </tr> </tbody> </table>				学校名	建設した校舎、施設	登録児童数			事業開始前	事業実施後 2019年5月	増減率 (備考)	1年次対象校					ラムチャンドラ校	2階建て6教室	162名	224名	38%増	シタダルマ校	2教室2棟(うち1棟2教室は自己資金分)	116名	142名	22%増			5年生クラスまでだったが2019年度に6年生クラスまで拡張した。			シャンティデビ校	3教室1棟、2教室2棟(うち2教室1棟は自己資金分)	51名	62名	22%増	合計		329名	428名	30%増
学校名	建設した校舎、施設	登録児童数																																								
		事業開始前	事業実施後 2019年5月	増減率 (備考)																																						
1年次対象校																																										
ラムチャンドラ校	2階建て6教室	162名	224名	38%増																																						
シタダルマ校	2教室2棟(うち1棟2教室は自己資金分)	116名	142名	22%増																																						
		5年生クラスまでだったが2019年度に6年生クラスまで拡張した。																																								
シャンティデビ校	3教室1棟、2教室2棟(うち2教室1棟は自己資金分)	51名	62名	22%増																																						
合計		329名	428名	30%増																																						

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：ネパール

日付：2019年8月21日

報告書名：平成30年度 日本NGO連携無償資金協力事業 中間報告書

2年次対象校				
マヘンドラ校	2階建6教室1棟、防 御壁	62名	39名	37%減
サラスワティ校	3教室1棟、2教室1棟 (自己資金)、防御壁2カ 所、階段、フェンス・ ゲート・レール	54名	58名	7%増
ジャヤブツダ校	2階建8教室1棟、ト イレ2室、フェンス・ ゲート	67名	65名	3%減
合計		183名	162名	11%減
2年間合計	6校36教室	512名	590名	15%増

<3年次対象校>

3校の校舎を建設中であり、現時点では達成されていない。

(イ)【3年次の指標①】対象校(9校:1年次3校、2年次3校、3年次3校)の教員の80%以上が防災紙芝居を活用した防災教育を実施している。

<1年次および2年次対象校>

2019年5月に実施した、建設対象校の校長へのインタビューおよび教員へのアンケート調査結果は以下の通りで、紙芝居、絵本の読み聞かせ共に目標値以上の割合で実践されている。

	防災紙芝居を演じてい る教員の割合	絵本の読みきかせをし ている教員の割合
1年次対象校	93%	73%
2年次対象校	79%	86%
平均	86%	80%

<3年次対象校>

図書活動についての教員研修は未実施のため、成果は産出されていない。

【3年次の指標②】対象校(9校:1年次3校、2年次3校、3年次3校)の子どもの80%以上が図書コーナーを利用している。

<1年次・2年次対象校>

2019年5月に実施した、教員へのアンケート調査結果は以下の通り。100の児童が日常的(週に3回以上)に図書コーナーの本を読んでいる。

	図書コーナーを日常的に利用している児童の割合
1年次対象校	100%
2年次対象校	100%

平均	100%
----	------

<3年次対象校>

図書コーナーの設置前なので、成果は産出されていない。

(ウ)【3年次の指標】対象校(9校:1年次3校、2年次3校、3年次3校)の80%以上が独自の学校防災計画を利用している。

9校とも学校の敷地、校舎の階数、配置、運動場のスペースに応じた学校防災計画を策定し、教員室に掲示している。ただし、3年次対象校は校舎建設後に防災計画を修正する必要がある。1年次・2年次対象校では、表に示す通り防災計画に基づいて避難訓練を実施した。

	避難訓練の実施 回数の平均値	備考
1年次対象校	4.7回	1年次に1回、2年次に3回から4回実施した。
2年次対象校	3校とも2019年5月に避難訓練を実施した。	

(エ)【3年次の指標①】対象校(9校:1年次3校、2年次3校、3年次3校)の教員、学校運営委員会、地域住民、郡教育局の80%以上が防災に関する必要な知識を有している。

<1年次・2年次対象校>

2年次対象3校の児童(5年生15名)、教員19名、学校運営委員会および保護者)15名へのアンケート調査を防災教育・防災活動前の2019年1月と2019年5月に同じ人物に対して行い、事業の効果を測定した。結果は以下の通りで目標値を達成している。郡教育局職員は、連邦制度の導入により2017年度で解体したためデータを収集できなかった。1年次のデータは昨年度のもの。児童、教員共にすべての項目において、目標値を上回っている。また教員は、防災についての理解が高まっただけでなく、防災について児童に教える能力も高まったことを示している。

<児童>

質問	対象	事業前	事業後
地震発生の原因を知っている。	1年次	0%	50%
	2年次	7%	87%
	平均	4%	69%
地震が起きた時どうすれば良いか知っている。	1年次	50%	100%
	2年次	27%	100%
	平均	39%	100%

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：ネパール

日付：2019年8月21日

報告書名：平成30年度 日本NGO連携無償資金協力事業 中間報告書

<教員>

質問	対象	事業前	事業後
地震発生の原因を知っている。	1年次	45%	91%
	2年次	84%	100%
	平均	65%	96%
地震が起きた時どうすれば良いか知っている。	1年次	100%	100%
	2年次	89%	100%
	平均	95%	100%
地震について児童に教えたことがある。	1年次	64%	100%
	2年次	95%	100%
	平均	80%	100%
地震が起きた時どうすれば良いのか児童に教えることができる。	1年次	64%	100%
	2年次	74%	85%
	平均	69%	93%

<学校運営委員会・保護者>

質問	対象	事業前	事業後
地震発生の原因を知っている。	1年次	0%	50%
	2年次	13%	33%
	平均	7%	42%
地震が起きた時どうすれば良いか知っている。	1年次	83%	100%
	2年次	73%	100%
	平均	78%	100%

<3年次の対象校>

第1回目の防災研修を実施した段階のため成果は産出されていない。

【3年次の指標②】対象校（9校:1年次3校、2年次3校、3年次3校）に通う子ども及び親の80%以上が学校防災計画の存在を認知している。

<1年次・2年次対象校>

2019年5月に実施した校長へのインタビュー調査結果は以下の通りで、児童、保護者共に目標値を達成できていない。この理由としては、質問が学校防災計画の存在を認知している割合ではなく、理解している割合なので、質問のレベルが指標よりも高いことがあげられる。しかしながら、存在を認知しているだけでなく、内容を理解していないといけなないので、第三回目の防災研修で実施する地域ハザードマップ作りや学期毎に行う避難訓練を通じて、学校防災計画の内容の理解促進を図っていく。

	学校防災計画を理解している児童の割合	学校防災計画を理解している保護者の割合
--	--------------------	---------------------

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：ネパール

日付：2019年8月21日

報告書名：平成30年度 日本NGO連携無償資金協力事業 中間報告書

	1年次対象校	71%	43%	
	2年次対象校	43%	43%	
	平均	57%	43%	
	<3年次対象校> 第1回目の防災研修を実施した段階のため成果は産出されていない。			
これまでの 実施内容・状 況	(ア) 教育省の耐震基準に準じた学校校舎の再建 ネパール政府復興庁の承認後、学校建設対象校3校の校長および学校運営委員会、ローカルパートナー、建設業者と各自の責任と役割についての合意書を署名し、建設を開始した。 7月31日の時点でインドラヤニ校(2階建4教室)の建設工事は全工程の25%が完了し、予定より当初計画より1カ月半遅れであるが、2月中旬までに完成予定である。遅延の理由は、整地作業の際、地中に1メートル程度の巨石が数個発見され、車が通れる道路から学校への道路がなく、建機による撤去ができないため、人力によって巨石の粉碎、撤去作業を行わざるをえなかったためである。ナラヤン校(1階建2教室)は54%が完了し、予定通り12月末に完成予定である。ゴータムブッダ校(2階建8教室と2階建4教室)は35%が完了し、予定通り1月末に完成予定である。ナラヤン校の校舎を保護するための擁壁および児童の安全確保のための階段の建設が完了した。インドラヤニ校の擁壁および階段は70%完了した。			
	(イ) 建設対象3校の周辺校9校を含む計12校の新年度開始後の学年数、児童数の調査を行った。図書コーナーに配架する児童書を確認し、補充するための新刊図書の発掘と選定を行い、配布図書リストを作成した。 防災教育教材の紙芝居作成に関しては、『火事と雷』、『災害から身を守ろう』の2タイトルのストーリー・絵コンテ原案作成、業者選定が完了し、出版社と共にダミー版を作成中である。			
	(ウ) 3年次対象校および周辺校の計12校を対象に、第1回防災研修である学校防災計画の策定を実施した。 (エ) 2年次対象校および周辺校の計12校を対象に、第2回防災研修である保護者への学校防災計画の説明会および避難訓練を実施した。 校舎建設については、当会スタッフのエンジニアが週に1回モニタリングを行い、工事と資材の質を確保している。			
	(オ) モニタリング・評価 校舎建設については、当会スタッフのエンジニアが週に1回モニタリングを行い、工事と資材の質を確保している。			